

第 49 回青森外傷セミナー (JPTEC プロバイダーコース) に参加しました

(2014/12/07)

テーマ：病院前救護・外傷初期診療、「The right patient in the right time to the right place」

場所：八戸市立市民病院（青森県八戸市）

2014 年 12 月 7 日(日)、青森県八戸市の八戸市立市民病院において第 49 回青森外傷セミナーが開催され、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が参加しました。JPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care) は日本救急医学会公認の病院前外傷教育プログラムで、医師向けの JATEC (Japan Advanced-, 佐々木は 2014 年 1 月に取得済) との整合性を保つことで病院前から病院内まで一貫した思想のもとに標準的な外傷治療を行い、我が国において防ぎ得る外傷死亡 (Preventable Trauma Death: PTD) の撲滅を目指すものです。

大規模災害や交通事故による高エネルギー外傷では、受傷から 1 時間以内に手術室等での適切な加療を受けることで救命率が格段に向上します（受傷後のこの 1 時間をゴールデンアワーといい、さらに受傷後の 10 分間をプラチナタイムと呼びます）。ゆえに外傷現場活動においては、傷病者の生命に関わる必要最低限の観察と処置のみを行い、一刻も早く治療が可能な医療機関に搬送することが求められます。適切な初期評価・生命維持、迅速な病院前後の引き継ぎのために用語や観察・処置行為の共通化が必要となります。

当日は多くの救急救命士や医師、看護師が受講しました。インストラクターも多岐に渡り医師、看護師、救急救命士、自衛官など救急・災害医療の第一線で働く方々ばかりでした。他に多くの救急隊員がタスクフォース、傷病者役で運営を補助していました（なかには 24 時間勤務明けの救急救命士もいました）。外傷患者に 15 秒間で行う初期評価、2 分間での全身観察、「ロード＆ゴー」の宣言（迅速な観察・処置、搬送の必要な傷病者と判断した際に隊長が行う）、バックボードへの全脊柱固定などの基礎項目を学習した後、夕方にはシナリオに基づいた実技試験、および 50 問の筆記試験がありました。佐々木のシナリオは 4 メートルの工事現場から落下した 30 代男性を評価し、適切な処置の後、救急車へ収容し病院へ通報・搬送するというものでした。傷病者を無事に病院へ向かわせることが出来たものの、大分冷汗をかく実技試験でした。

病院前で救急災害医療を支える救急隊員や消防隊員の大変な業務、救命への懸命な思い、努力を、全身の筋肉痛で文字通り「身をもって」知ることの出来る大変良い契機となりました。



（写真 左上：当日のインストラクター。左から自衛官、看護師、看護師、救急救命士の方々。優しい表情とは裏腹に厳しい指導がバシバシ飛ぶ。左下：傷病者搬送のためのバックボード。ベルトとヘッドイモバイザーで全脊柱固定。右：内臓の脱出した外傷患者への処置を検討する受講者。）

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）